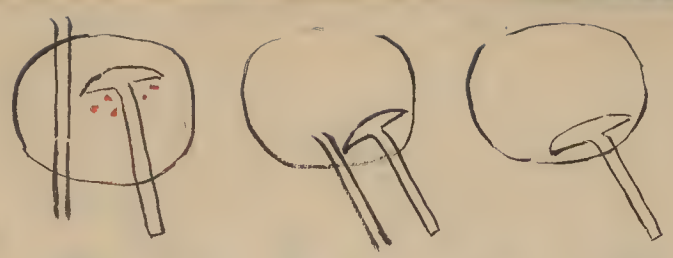


537

かきく火のたきとてわきくうきす神といふ
 もろいといふ

底を取人夏 一説 見合セニ記置 底取事出覺書二卷



釜を揚火くして下火をえ下火多時ハ其火くくと炭取ニセ羽
 常モ炭取エノセイロリ炭斗置坐ノ向ノ方ハヤリ半太ヲ持出半太ニ
 底取長火箸ノセテ出ル半太ノニッ足ノ方ヲ炉ノ方ハ付テ置炭斗置
 坐ニ置底取ヲ半太ニカケ居如此長火箸ニテ大ナル火ヲ半太ハ取出
 小ナル火ヲ灰ノキ前ノ方ハヨセアツメ其火箸ヲ亦半太ハカケテヨク
 居如此コレヨリ底取ヲ持柄如此」其小火ヲスクヒ取五徳ノ凡ハ
 少ミアテ半太ノ中ハ入底取ヲ火の上ハカクセしる候るちつと押
 くと長火箸を半太ノ上ハのせ如居半太を持くと勝手引来る
 炭取ヲ取常ノ火箸くして下火をえス例ノあし

薄板炉少りの壺

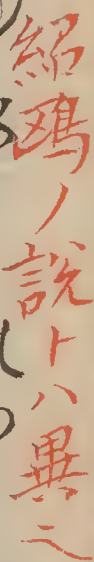
いんぐわい関前好こ

壺師 或人ノ物語ヲ記置

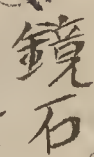
壺ノトリ緒カラ折ニ十四折。長緒ニギ折但シ四折ニ四折ヲユルギ
折ニイタシタルニ四角ニ成ルニ又下常ノ四折右友標常ノ四折ニ
ギ折ニ不致四折ニ是モ四角ノ心持ニト共九キヤウニナルニ。長ハ壺ニ
應ス此長緒ノ先ニフサツクルニ勿論同色ニ○乳緒ハ常ノ四折ニ
キ折ニ不致ニ長サ壺ニ應ス○壺ノ袋ノ紐ハ四折ユルギ折不及
壺ノ口紙張判三ツ壺ノ蓋ノ上ニ一ツ壺ノ前ニ一ツ後ニ一ツ都合三ニ
○長緒ノ色紅ト紫ニ。糸ハカラ糸ニカタ糸ニモ出来トテセラヲ唐糸ト
イフ糸ノヨリ方違フ強クヨリモノニシヤリクイタシトテセラノ上ハ
ゾベ。是最上ニゾベハスガ糸ヲ子リトテ深トニ。本紅ハ紅ノ最上ニ。スガ
糸ハ画緒トドニギイト糸ニ。又イ糸モ用ト共毛ハタチテアシ。口覆ノ切
紋真中ニ成ル様ニ張付ト又傳授ニ

此ハ信用セサレ見合ノタメニ記置

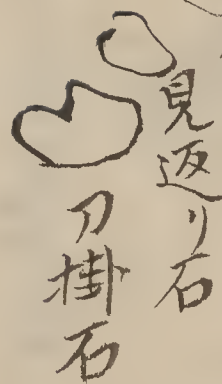
紐ノ真行草壺ノ口覆乳緒取緒斗草。壺ノ口覆乳緒長緒
輪ハスビニアハギハスビ行壺ノ口覆乳緒長緒輪ハスビニアハギハスビツ
ケハスビ一ツ真。行草ハニフサツクル取緒ハフサハ不付ト。
壺ノ乳緒ノ事壺ノ前ニ向テ充ノ方ノ乳ノ上ヨリ下へ通シ右方ハ乳ノ下
ヨリ上へ通ス緒ノ口ノ中ヲハ如此ニシテ壺ノ口張ノ真中へアテ其中ヲ左
右ノ緒ニテ真結ニイタシ其先ハ其ハスビニ処ヨリ乳ニアテトタルニ壺ノ
後ノ方ハスビテ右ノ乳ノ上ヨリ下へ通シ左ハ下カラ上へ通ス其外前ト同前



掛物竹ノ軸 侯爵好卜仁
有之



飛石



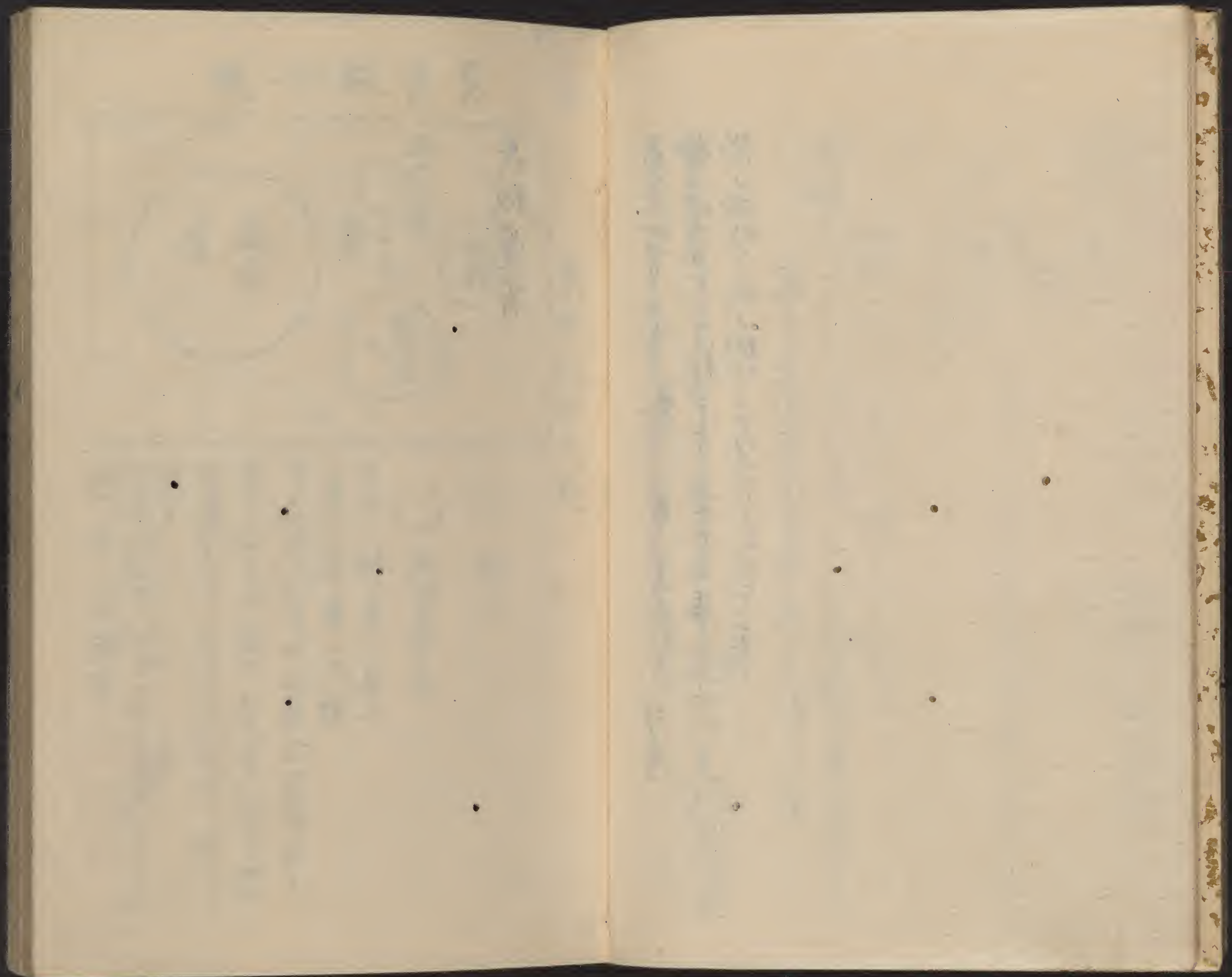
此石^ニ衣^テ紋^ナ改^テ圓^ニ入^テ是^ヲ鏡^石申^ス上

此歌いすいともく歌と一人あり

常盤山とていふ所は、いそひにちこれ敷き海をもきてと
あやさ祝お世もむすとのうかき幸しと

切多之目曰多。半。甚。目。共。目。䷋ 如此夫。故。䷋ 是。

茶筥一フリトイフハ数カツノ事トイフ説アリ可考
釜ノ環ノカサナリ極ニテトリ方子ガヒ入事アリ
湯ノ柄杓ト水ノ柄杓トアツカヒ少子ガヒ入事

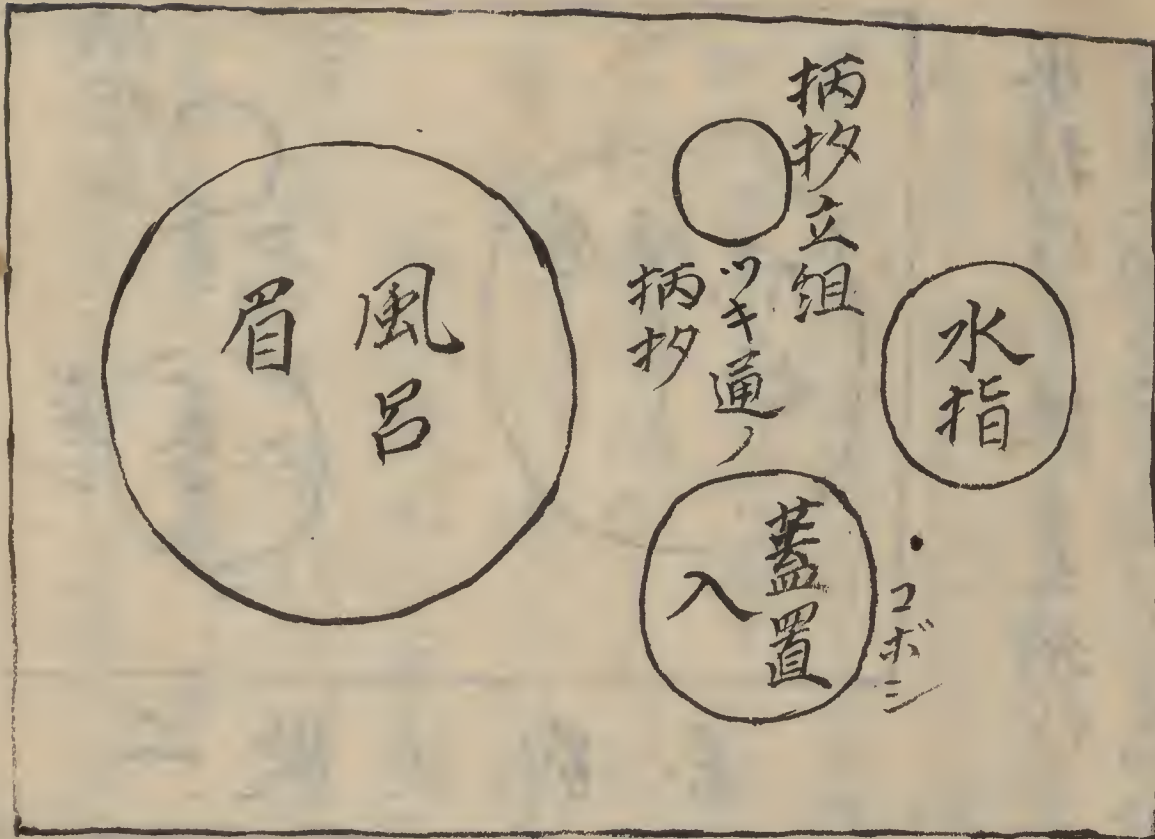


讀合

長板覺書

長板風炉六段

真長板一段



茶入

天目臺共

天目ノ時常ノ茶入
盆立ノ時常ノ茶碗

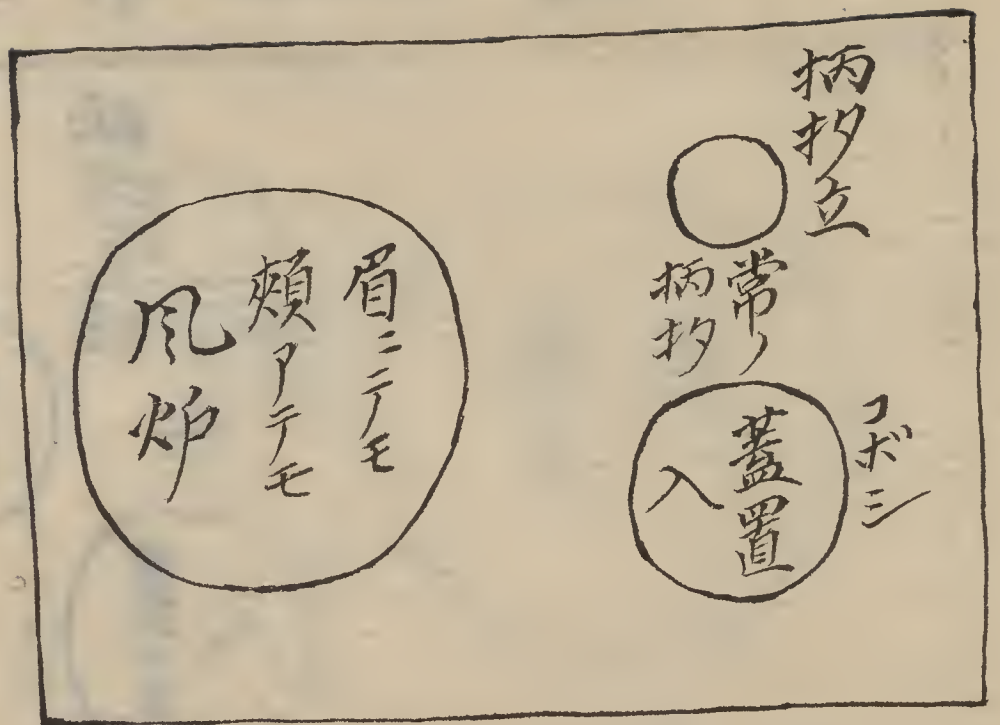
其道具水指ホ近唐金唐物ヲ考トス
常ノホてもむ襦の上下有初座分如此
師炭取多上右の方風炉の取ト重

本々

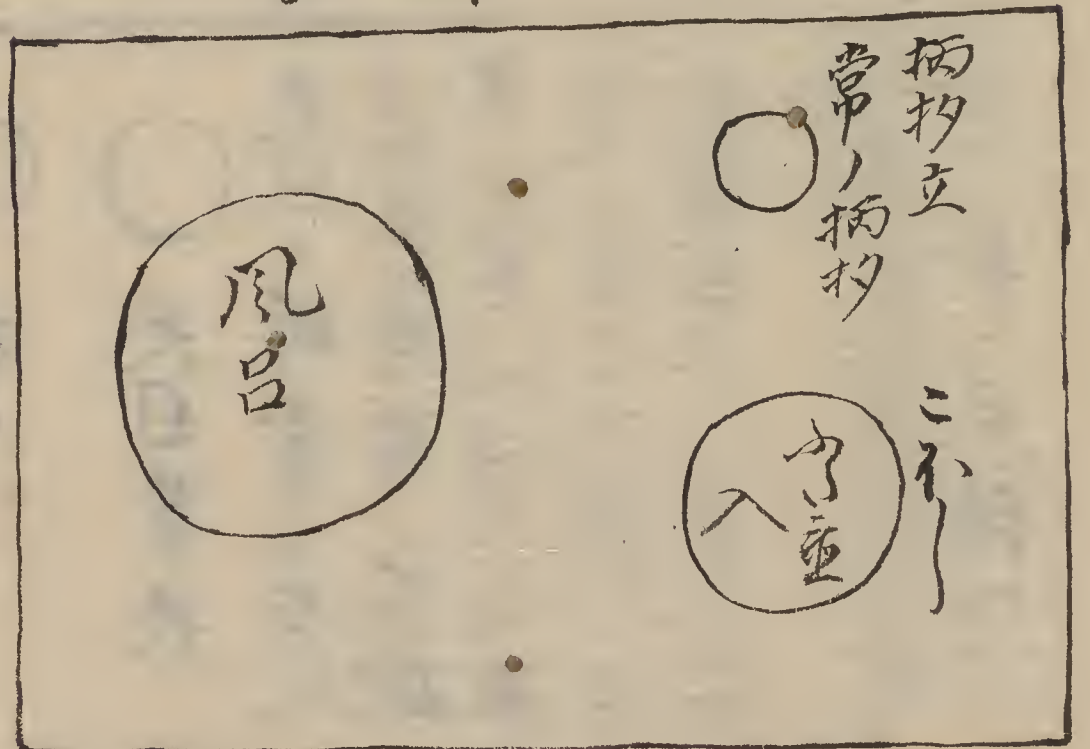
香合

又後ニ如此師初座炭斗羽ホウキモ重
是ハ畧ニ床諸師ニ

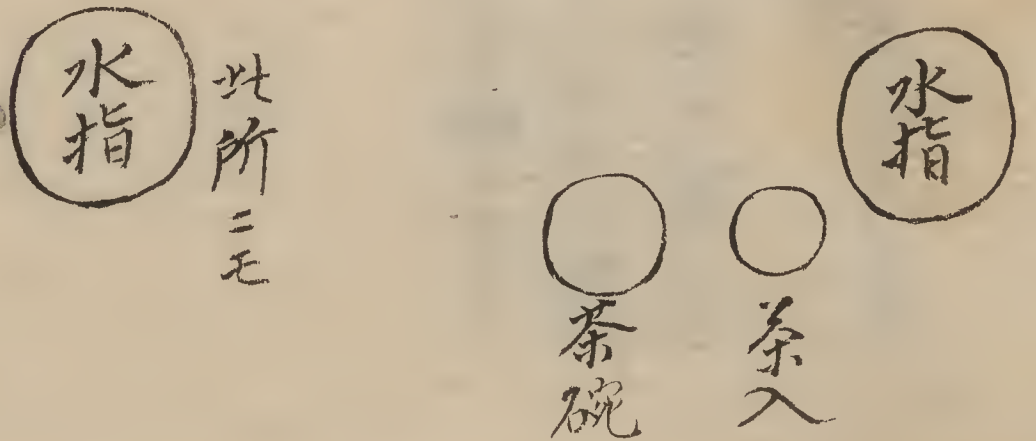
二 版



二版ノ別号



水指持お紙ニ蓋柄抄立お不しを本座へ出し水指を長板
と上ル初座右ニ内し花入斗ニテ後ニ掛物なりニモ



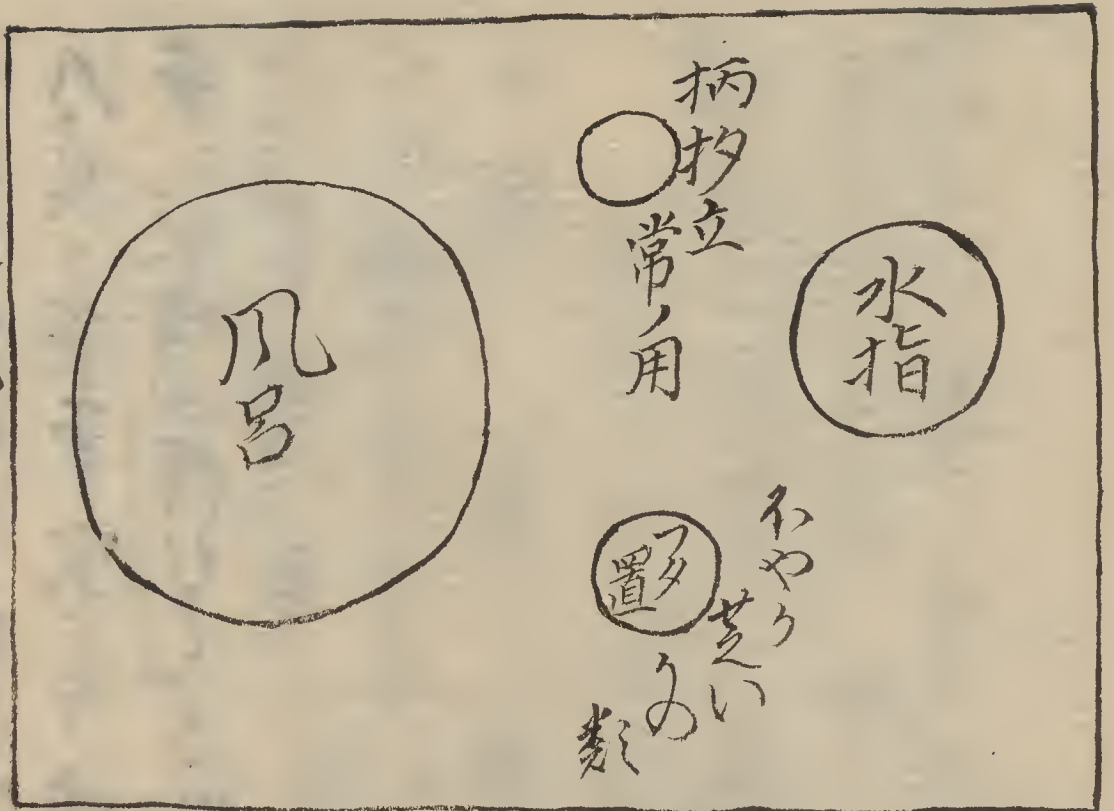
一 版

又曰二版ノ別号ありてコホシ柄抄立其終置水指を多し上し
並付人作前有是ハ名物ノ柄抄立こ不し蓋置ノ時ハ拜儀ノ
乃具う茶事宗匠ノ傳來ノ乃具う由緒有之道具ノ時ノ
事ハ水指由緒なく名物ありともなく板の上し組合めしき時
如此常ハ不用常ノ茶湯ハ立不苦ニ
七版四版風炉をカッセツの物の曲尺を用へし礼ニ不可量
手繋して後人の曲尺を用事ハ口傳

右三版目の長板ニモ此手前あり

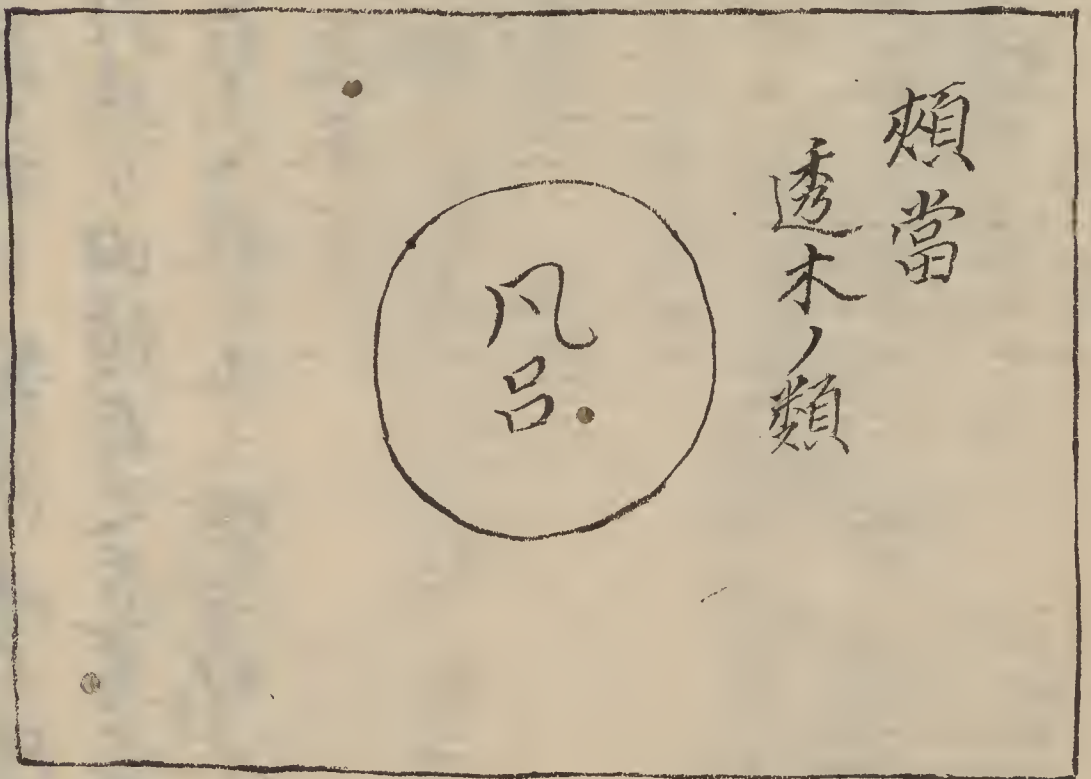
澤翁の云水指一ツ置時の如く花の長板ノ端あり上し
並くよしと云りあり記右長板ノ端ハ水指有之時茶碗花
のかへ付ニ並く茶入斗水指ニ組てもよし

三 版



龍の勝手より

此四版の長板の並方と一ツ並と云何も初座より添物なり



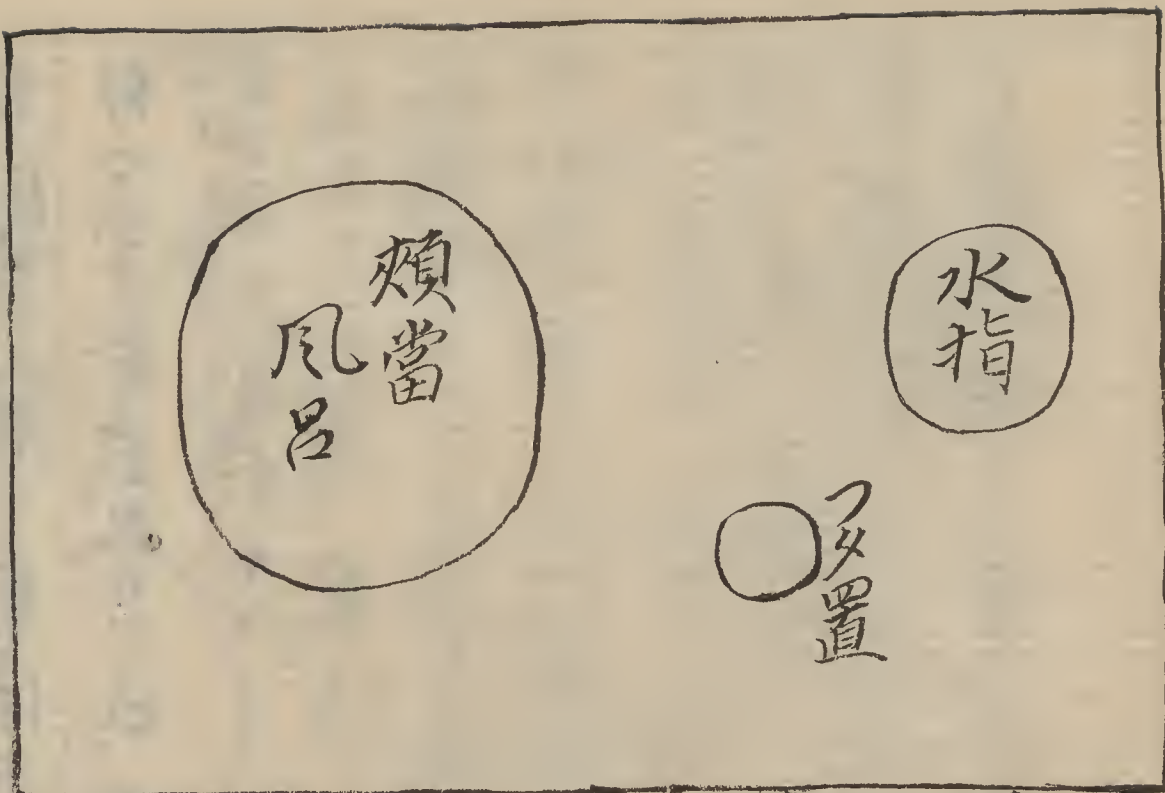
四版

一

掛物斗棚も多しなり 炭斗柄も多しの上右の方風呂の服と並座座いなり等とこいひ果のわと並付る事本式又果如なり等とこいひ三つなりぬれ肺付て此四版の水指なり柄杓の通ふなり等とこいひ三つなりぬれ肺付て立上りなり本式なり

水指なりと云宗源より酒井日州より切紙傳へるハ水指不湯斗なる仕廻作前之野田より新の方より湯斗前在是を云く水さし茶立なり

私云是ハ不時なりハ水指なりハ湯斗も面かき人ハ早見水さし銭多のより並と云くあき人ハ湯仕廻りなり



茶入○

初座右ニ同一大丸盃
ても小盃ても常
の茶入ても

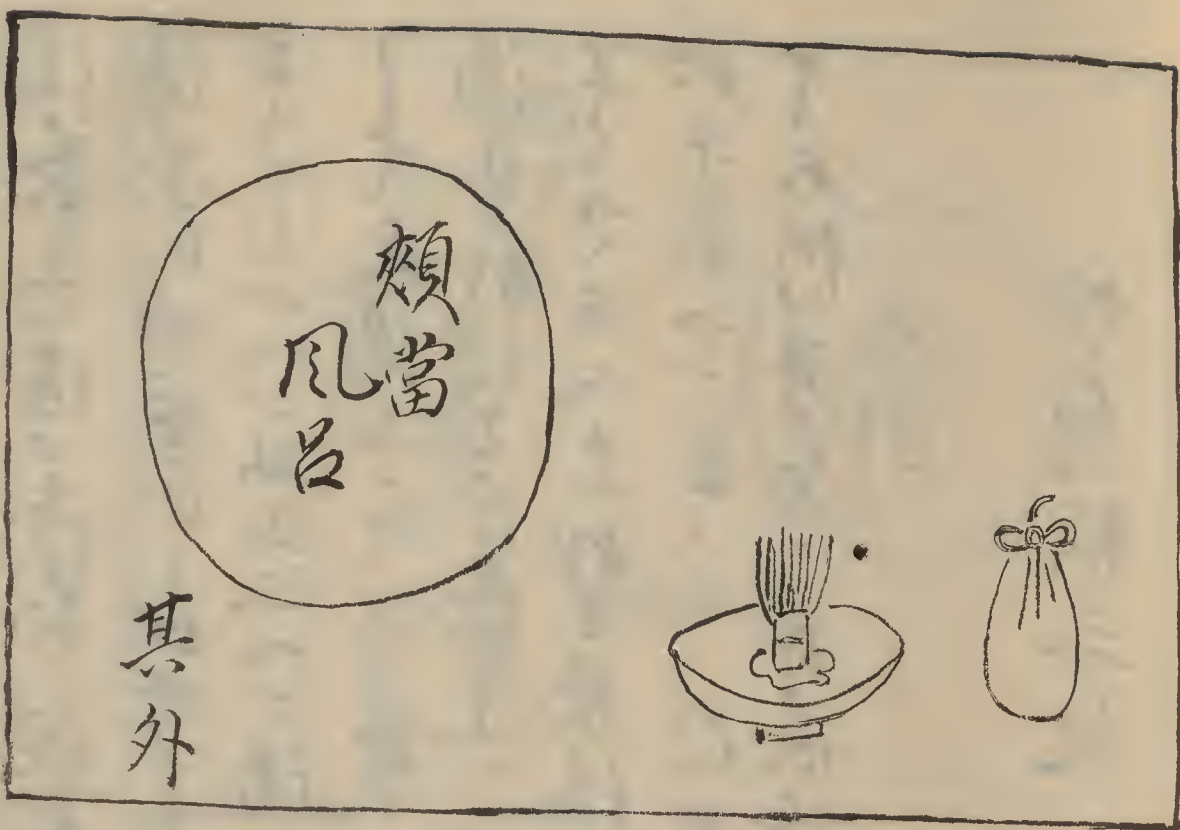
茶碗○

蓋置唐金

又土の物なり

了殊より名

了並あり



水々々云云茶湯宗源

切紙ニあり

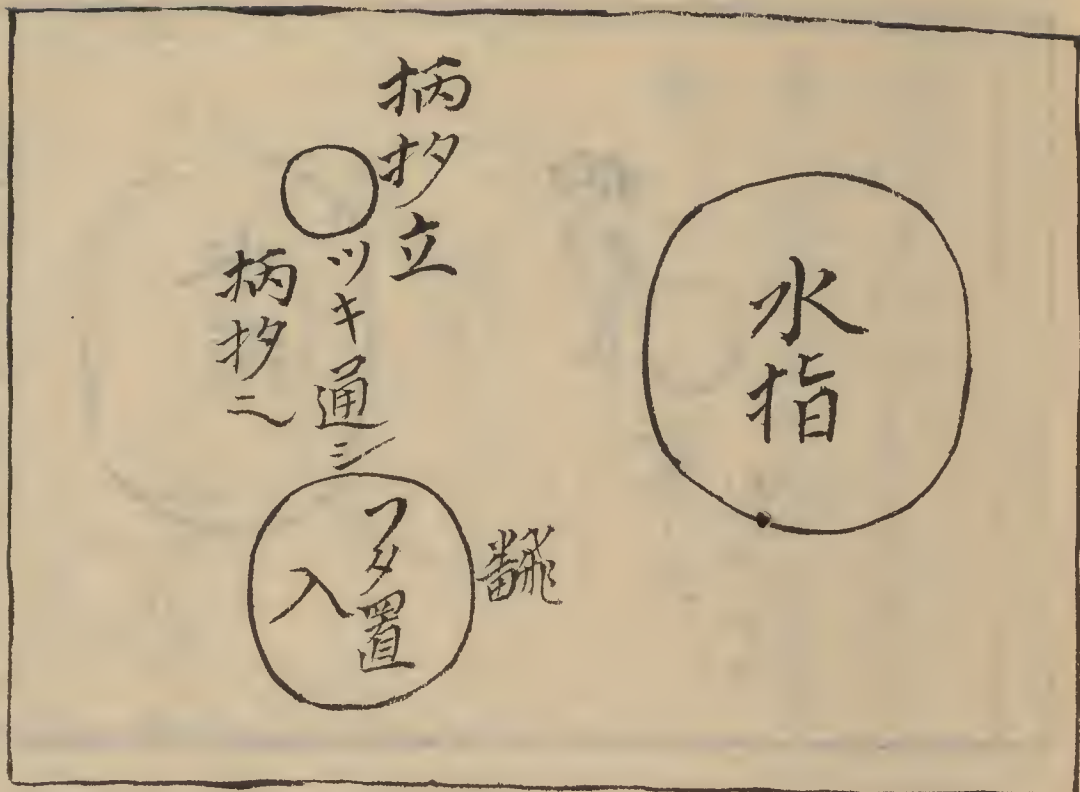
其外

物好キなりぬりても

一 此手前を湯手前共湯茶湯共云云三柄抄蓋置持出テ茶立

水指なり。初座ニ炭斗香合木ノ物長板ニ並後ニ茶ノ如ク並付
湯茶立ル後ニ湯茶ノ碗來オツメなり。水指長板ニノセ湯茶立ル事有
湯茶の時茶のこ仕廻テモこれテす。き。時茶付外ス、キ。一ニ茶筥
こ。一ニ上二ニ湯水よりき。て指。て茶の付。る。と落
して又湯ス、キ。シテ常ハ茶セ。こ。を。ある。な。も。ど。け。め。て
湯斗が指。て落。る。き。故。指茶碗の中へい。ま。ぬ。故。二。人
さ。き。ゆ。二。ま。故。茶。碗。り。外。板。ニ。立。さ。り。よ。一。内。流。の中。ニ。テ。モ
此手茶一ツ並ノ板ニ風呂中ニ並仕外をある由一ツ並ニさうい
て。何。湯茶の時水指長板。の。あり。口傳

真長板一版



初座炭斗持おかけ、盃ニ並炭スル
く床諸師之
大丸盆行草の師ヲて之道具
かゝ金唐物本儀之

○茶入

天目盆立ノウキ

此所三毛

何進之也片之

茶碗

盆立之記常

茶碗久付

○茶入

此所
二七

茶碗

入置

翻

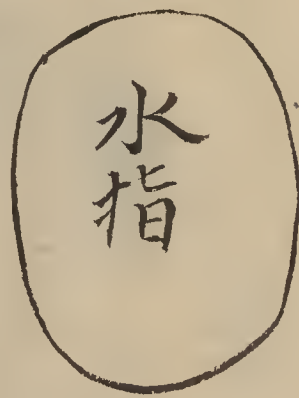
柄抄立

○ツキ通シ

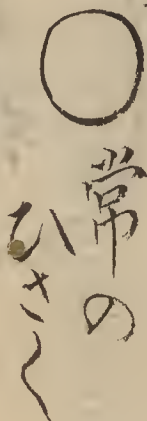
柄杓

行二版

釜水指片に長く長板のせ湯茶立と事此習 朽木氏傳



柄杓立

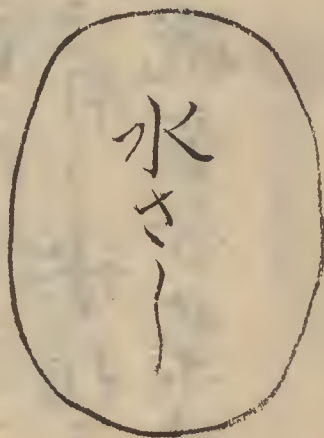


別義の湯仕旦と一ツ置の如くても
よりといふ一ツ並に終まそ如何
初産右に同し其内掛物斗にとも
後産勝手分鬚蓋置入持あり
茶碗茶入りより付同盆立のとれ
ちやとんぐ付

水指金の物土のものともより
茶餅と水指(水次)で水ツギタシ

草三版

水指ニ水次とて水次足シ
ゆへ水指土の物おる
あり



いさく



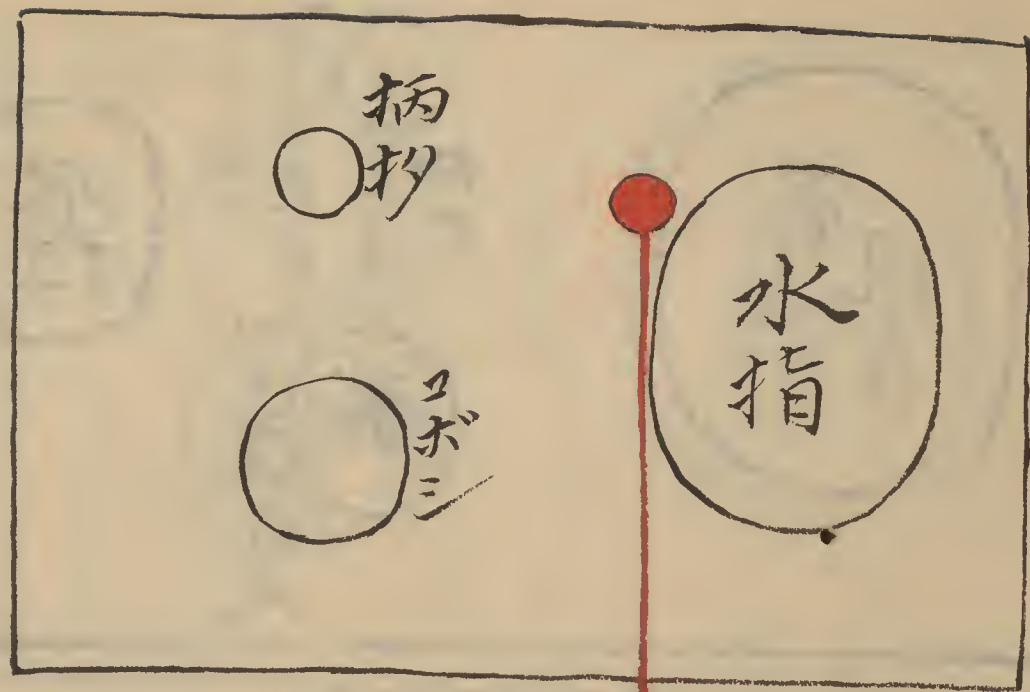
常の蓋置とも

茶入

茶碗

初産常の茶湯おわし柄杓
勝手分持出盆立より時前同し
茶具おわぐしの時四角半の習
通茶壺茶抄筋透テ丸

別



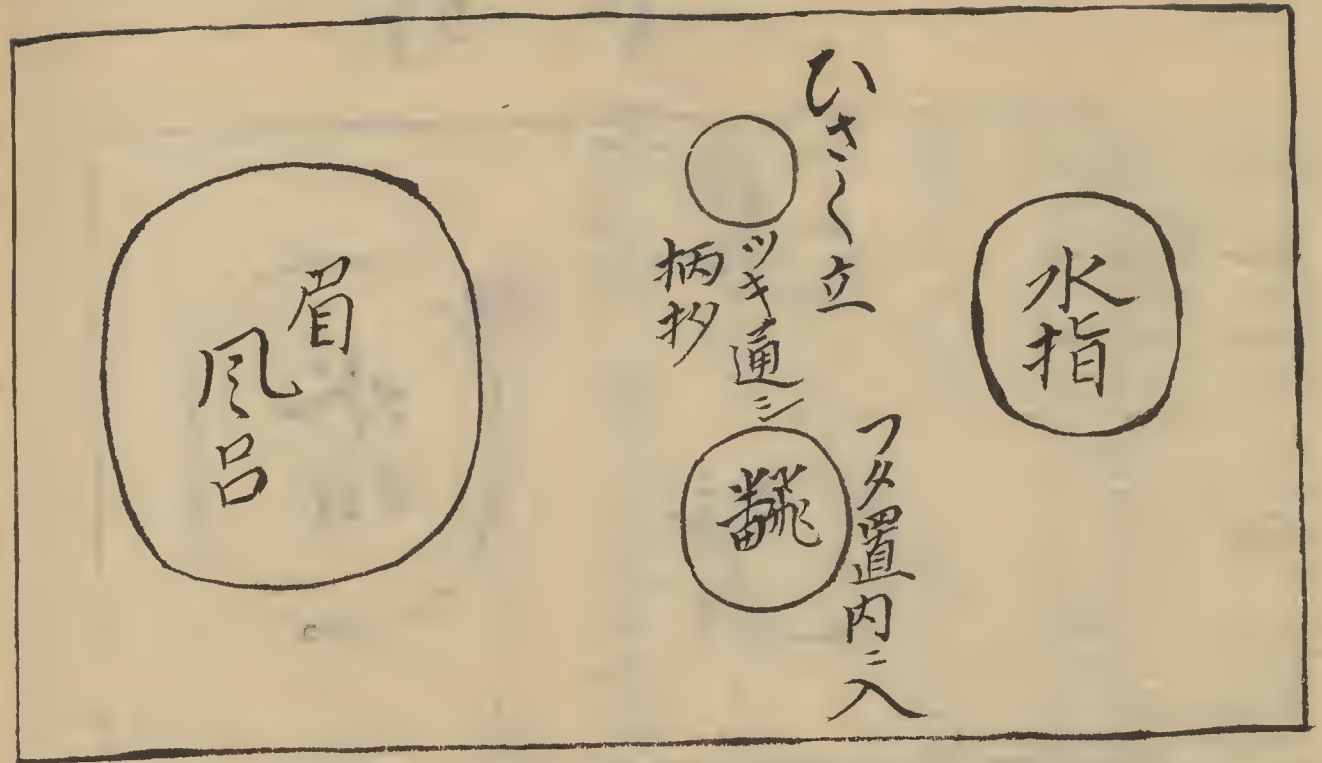
○茶入茶入

○茶入茶入如此くを合

如此く柄杓通す

私云炉一版二版何も茂茶入茶釜同流くても
 心得るがひく炉の角うけく四角半色必助遠く
 礼ゆえたう通あやほり元け礼ゆえ水さう乃具
 多の中あみ有と水指の角が炉あうのをふけ
 て曲尺を合く礼うなり一版二版い水指大目の
 有り水指と炉との曲尺不合依く別界のおく
 茶碗重合茶釜と夫可習あ茂習ト云

極真凡呂長板



道具金物唐金ニ初座分如此飾

茶入盆ニ系長板本式草ノ端ハ
常ノ_{（ツキ通シ）}ニテモ

○臺天目大丸盆真ニテモ

初座分板ノ上飾有床諸師

茶湯濟テ習之通所望乃具之依處

初座并湯茶共ニ炭斗凡呂ノ右ノ方

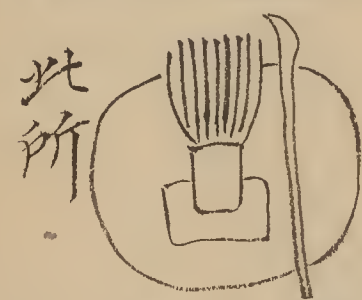
多クノ上ニ並炭斗ノ内ナリ用後座

天目茶如扇師茶釜並持出

茶抄長ニテモ常ノニテモ必湯

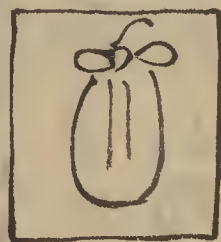
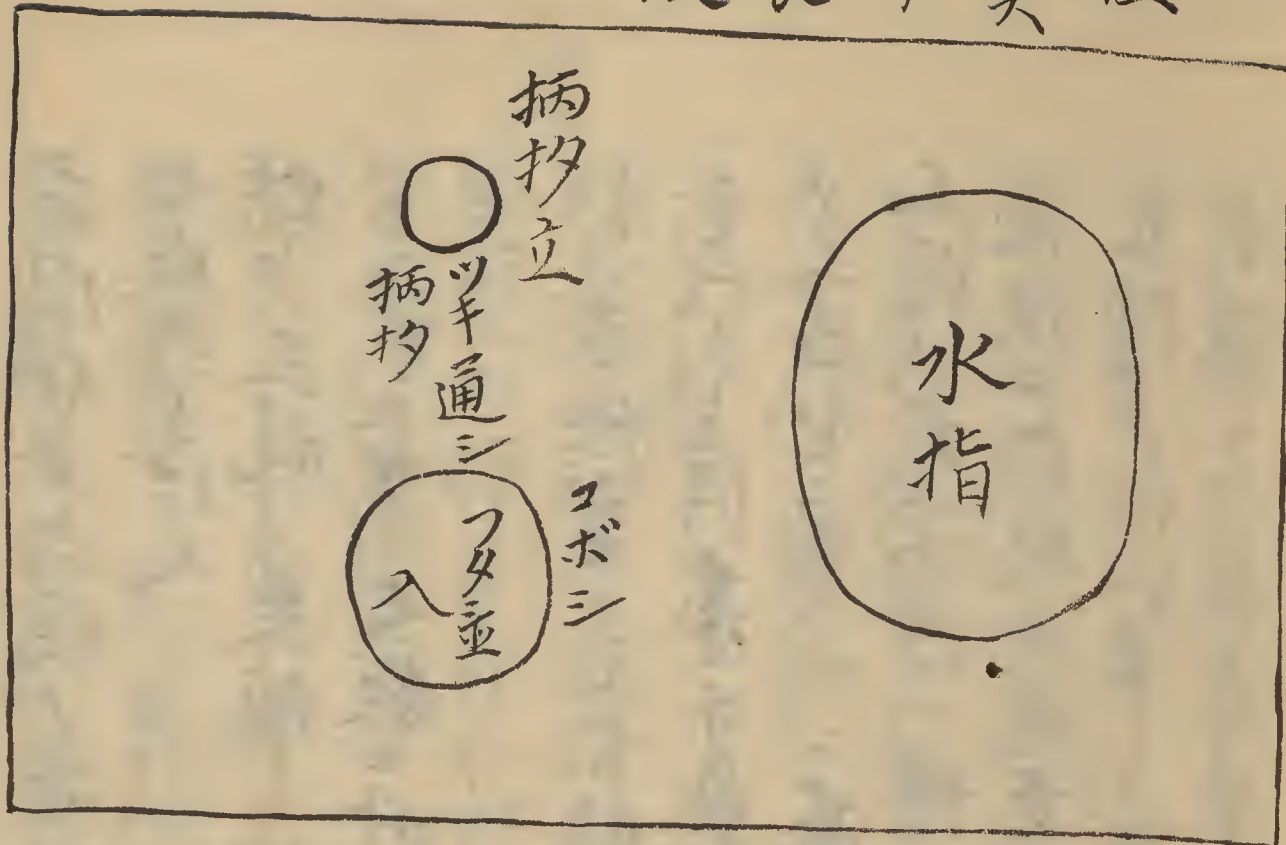
茶立ル事有凡呂ノく人わけ

ハけ習之通



此所

極真炉長板



初座諸師炭斗ナキ多クニ持ハ

並テ炭スルカ内ナリ用諸具唐

金唐物。後座臺天目盆立又ハ

真ノ大丸盆ニテモ茶入長緒本式

ニテモ結ニテモ天目茶入後坐師

其外初坐分師付乃具所望ノ

事前ニ同シ必湯茶有リ

茶釜置持出此所ニ置手前
ノ時右ニ置カスル事習ノ通り

右風炉ノ六版ノ長板ニ極真ノ長板を入テ七版ニ是臺子
七版のうけニ

炉ノ三版ノ長板ニ極真也添テ四版是風呂ハ七版ニテ
半数ニ陽之數ニ叶ヘリ炉ハ四版ニテ陰數殊用相不離
心ニ

本々、私ニ云極真ヲ立ル時麻上下僧ハ其將衣束着シヨリセニ
もぐりし臺子免ヘリ此ノ所重無據時長板七四
ノ二品を免スベシ臺子傳授シテ不苦人ハ先是テ六版
三版ノ式法傳ヘ極真ノ長板真ノ臺子一度ニ免スベシ
長板ニ六版四版有支を口外ニむさとお火屋ノうけニ是
先師分のいすゝ免ニ
長板ニ六版有臺子の上の極無物と心得其四版目ニ

一ツ置ト云有風呂釜と云中ニ並外ニナカも不並是ヲ
一ツ並ト云ニ吳説ノ風呂かまハ及具の數ノ不入番合環
かゝの類一ツ添テ一ツ並ト云あやまニ何となくハ凡
炉釜ハ俗語ノ亭主ノ代リといひなすハ世とも臺子傳授
ナキ人の雜語ニセツ師分ニテ皆風呂ハ版數ニ入まり
其上秘事ニ一巻傳授ナリニテむさと云屋ノうけ
一ツ置ハ細キ水指を勝手ノ方多ク上ニ並合せゆる茶入
茶碗の飾付れなくニテ茶入茶釜水指と三ツ並ぬ板
ニ可心得蓋置ハ長板の上ニ有テ柄抄掛ルニむふろと
水さゝのり有ニ

炉臺子ハ茶釜ハ風呂ト同一秘傳の事此のべりト
茶立ハ時茶釜置を右の方へおくと右の茶釜ハ本

又長板一本 讀合

勝手にてハ茶釜並持出テ茶抄並替りト炉行草の時茶釜並不ハ盆立テ茶釜茶抄の方ハ初終並中ニ
テ茶の付テり時ハ不ハの先ハ外スとの遠ナリ

割 記

水指

柄抄立 水洒

風炉釜

〇〇

一茶碗茶入持出水指ノ前考置キ水洒ヲ下シ蓋置水洒跡ニ置茶碗風炉前ニ並茶入袋サバキシテ袋ヲ納メ茶立作法諸事如常水次持出水指ニ水ヲツギ釜ノ蓋ヲ取掛ケテ退ニ

北方客付ハ一ハニ置

本ノ、
此ノ
六分

柄抄立 水洒

風炉釜

内ニツメ置

一水指ヲ持出長板ノ右角ノ前ニカリツメ置柄抄立ヲ風炉方ニ寄水洒モ柄抄立ノ前ニ並シ水指ヲ長板ノ上ハ上水洒ヲ下シ蓋置其跡ニ置水洒花ヒサノ眼ハ下ニ置茶入茶碗持出目當能所ニ置風炉向茶ヲ立次才如常茶入茶碗持出テ後水洒下シモスル

柄抄立

風炉釜

○



水指

一水指持出長板ノ右角掛テ多ク
上ニ置茶入茶碗持出風炉上柄抄
立ノ右考多ク上ニ置水洒持出蓋
置取出シ板ノ上カ多ク上カ取所内
如習考テ置

一 身構シテ茶碗ヲ風炉前ニ置其前へ茶
入ヲ取代袋サバキシテ茶入ヲ改水指ノ前考
置茶抄ヲ改茶入ノ上ニ置茶巾風炉上柄
抄立ノ右ニ置柄抄ヲ取湯ヲ汲入茶ヲ煮
次第前ニ同シ仕廻モ同所左勝手如此右勝手
手ハ水指右ニ置茶入茶碗左ニ置之

風炉釜

茶入
茶碗

水指如
此モカサ
リツクル

一 水指持出長板ノ上ニモ多ク上ニモ置左右ハ
座補ノツキ次第ノ客ニ不背極諸具ノ
置合口傳有モテレヌ極ニ覺悟ヲ用テリ
此時水指板ノ上ニ置時少シ並邊トモ度々
不並並物ニ諸具初ヨリ置合時ハ成ホト
念ヲ入少モヒツマヌ極ニロクニ置テ吉茶
入茶碗持出水指ニ應シ並合水洒ニツタ
並ヲ入柄抄ト一度ニ持出ツタ並長板ノ
左ノ角懸テ並風炉前へ茶碗並シ茶入
ヲ置茶立作法如常仕廻モ同シ

ニツ置ニシテ

水指

風炉釜

フタ置

フタ置
如北ニモ

一茶を立ル次才前ニ同長板ニ大板小板
有大板時如鏡水指組合有時ハ
茶碗茶入板ノ上風炉ト水指ノ間ニ並
合茶立ル仕廻モアリ多ク上ニ置合モス
ル能傳テ更用スヘシ

茶
茶

風炉釜

丁

水洒
上ニ柄杓内ニ蓋
置

一水指前後不出茶入茶碗持
出置合水洒ノ上ニ柄杓ヲ置
内ニ蓋置入持出テ茶ヲ立
ル仕廻有リ本ノ元ハ中茶一服
切ニ立ル故天目ニテモ茶碗テ
モ湯スギ一篇シテ二篇目
ニ茶筌スギシテ仕廻タルニ此
後心得口傳有リ右何モ
左勝手之右勝手ノ時ハ此
置合左右エ折邊シタルモノニ

囲炉裏

水指

柄抄立

水洒

一茶入茶碗持出 水指ノ前ヲ考置合
囲炉裏向居住居シテ茶碗 囲炉裏
目當能所エ出シ置其前エ茶入ヲ並シ
袋サバキシテ茶入ヲ改水指ノ前ヲ考
テ置茶抄ヲ改茶入ノ上ニ置茶巾水
指ノ蓋ノ上ニ置水洒紙初ニ下ニ柄抄立
ヲ水指ノ通リヲ考引出シ置
一水洒紙初ニ下シ時ヒザノワキヘ取ナリ
蓋置カギ多クニ置釜ノ蓋ヲ取茶ヲ
立ル次才如常

柄抄立

水洒

フタ置組入

一茶入茶碗持出 柄抄立 水洒ノ間ヲ考入
茶碗イロリ前エ並シ茶入ヲ其前ヘ取緒
サバキシテ改メイロリト長板ノ上柄抄立ノ
有所ヲ並邊ノカ子ニ見坂シ茶入ヲ置茶
抄ヲ茶入ニ置茶筥ヲ茶入ノ右ニ置テ水
洒ヲ下シ蓋置其跡ニ置水洒^{本々ハ}花ノヒザ
ワキエ取釜ノ蓋ヲ長板ノ上ノ蓋置茶
巾ヲ取釜ノフタノ上ニ置柄抄ヲ取茶ヲ
立次才如常仕廻モ同事

水指

茶入
茶碗

三色組入

一水洒ト蓋置柄杓持出水洒ヲ亭主多ク
右角ニ置蓋置取出シカギ多クニ置柄杓
ヲ掛水洒ヲ龙へ取茶碗ヲイロリ前エ取
下シ其前エ茶入ヲ下シ緒サバキシテ茶入ヲ
改長板ノ上茶碗ノ跡ニ置茶杓改テ茶入ノ
照ニ置亦茶入ノフタノ上ニモ置茶筴ヲ茶
入ノ右置此外茶立ル次第仕廻マテ如常

勝へ

一長板ハ臺子ノ下ノ板ヲ表スルナリ諸君具臺子ノ如クニ
一長板ノ時炭ハ所望シテ見モスル

一長板多クノ上ニ置極臺子ニ同シ但小形成長板ハ見合
有ヘシ

一長板十口ハ小板ガシギニシテ用シ

一長板ハ臺子ノ略ハ傳更ノ人ハ置合自由自在ニ傳
更ノ人長板ニテ茶ヲ立ル見テ傳更ナキ人モ似ラスル
笑談事ノ長板ハ客付ノ方一ハイニ置

此一卷野田醉翁ハ傳寫スル有之

此取卷予ガ傳書ノ長板ノ書ト見合セノ
タメ本書ノマ、ウツシ置

宗古

数寄屋好ト覚書

地形

地形並ヨリ四五寸高ク築上を柱下地形刻栗砂利ホ
ニ而突堅メ柱石居可ヤム但かけこに見付柱石並批石
も並地形之通突堅メ土中ニ角石を居へ其上格好宜石
を足立仕合ツヤム勿論其節柄見分

一 三多中石

ツリ高サ一尺六寸

一 柱枳長皮ツラ付ケツリタテ二寸八分但メニ三フ半位
曲ムツラ赤松皮付ツラ下ニ有

腰板ハ一寸半分餘モ壁へヌリツミ外へハ二三分モ見ル

一 タテ地桁の中角迄八尺八寸

九尺ニ棟ノ高サ一丈五尺三寸五分

中むくど 一寸五分位

タル木掛柱石ヨリ八尺

タル木 三寸勾配

ノヤ子ノ勾配 三寸五分

本柱ヨリひさし柱ノ高 四尺

ひさしけしヨリ軒ノ出え 一尺六七寸

床柱 杣丸太 三寸餘

屋祿

かまふこや祿 ぎりづますきぐや

屋祿 ひと板 六分あり

いさしけのや祿 いはせあり 位にあり

きりつまの屋祿 裏はくろへ竹 三本 打アケ

むかづりより屋祿の出え ころ木 一丈五

勾配 五寸

額付板 六寸位 杣ノ寸

天井

天井ノ高サ 六尺一寸 亭主をうへ 五尺七寸

天井丸いしころべ

丸板のさわがらつが 七本

わしやらの厚サ 七ブメン 一ブ半

かま天井の上わしやら 三本

女竹ニツとせ指液 三分位

まわりやら 一寸六ブ四方

大工の厚サ 一寸四ブ とも 一寸六ブ半

床ノ天井

床の天井 かみ板 杣

床ノ天井 高サ 六尺四寸一ツ

屋根裏

いさゝゝ 屋根裏くらべりい

せききいろきをせ

軒ノ廣木舞ノも 一才八分 厚サ 七分

○ひさゝ 三寸勾配

タル木ツラ付丸太メン取さゝゝ 竹をせ

タル木数 七本 さゝゝ 竹 木口一才四五分

ホソ丸太タル木フサ一才四五分 五六分

あけりのふとさ 三ツ半 四分位

煙竈ノクハリ

高サ 二尺四寸 も 二尺二寸

鳴戸ノも 二寸二ツ 同厚サ 一才七ツ

鴨居ノも 三寸二ツ 同厚サ 九ツ半

もさゝゝノも 一才七ツ もさゝゝノ厚サ 五ツ半

上下柱へてここ 三ツ へてつけのふとさ 九ツ半

同厚サハツ 戸かすらノも 九ツ 戸かすらノ厚サ 七ツ

さんもわゝゝ上ノさん 鴨居のあいさ 一才七ツ

戸法に服板のも 四寸二ツ 二ツ板の板ノも 九ツ

二ツ板の板ノ厚サ 一ツ半

引手ノも 五ツ 同厚サ 四ツ 引手かすらへ一ツ

うつゝ 竪内法 二尺

○クハリノ上ノまん 横内法 三尺二ツ

勝手ノくはり

高サ五尺。も。二尺七フ。くしがい板ノも。七寸。
上ノゆ四寸六フハ直ニ上ヲ一寸残シ。ソレヨリ四方柱ノ内
ノリ九フミールあくる鴨居ノカブかけ又下ハ五フミール
さうりつくるへ〇方立ノも。一寸七フ半。内厚サ九フ半。
表ノも。二寸九フ。内厚サ一寸七フ。へり。三フ。ミゾ。六フ。
鴨居ノも。一寸五フ。内厚サ一寸四フ。

風炉先窓

下地窓ノ鴨居鴨居ノ厚サ。七フ。内も。一寸四フ。あぜ
前ヨリ。二フ。ミゾ。四フ。表ノミゾツカサ。一フ。鴨居ノミゾ
ノツカサ中ニテ。四フ。表ノミゾ。三フ。窓ノ高サ地ノ表ヨリ
窓ノ表ノ下迄。六寸。窓ノ内法高一尺四寸五フ。横一尺二
寸。カ跡ノ小カへ。七寸。

中柱

中柱ノつとサ。六寸七フマハリ。表ノヨリ横竹ノ下迄。二尺二寸。
地ノ表ノも。一寸九フ。横竹本ニテ。一寸三フ。但柱ノ取合セニ
ヨルフシ数四。フミールいそぎ足る。

板

板ノ長サ一尺五フ。も。八寸五フ。板ノ厚サ。四フ。も。ばこ。
カブ半。はり木ノつとサ。五分三リン四方。

床

落懸中ノ目通りタル板。床板ケヤキ。かすら。同木。
落懸ノも。二寸六フ。内厚。一寸二フ。床かすらノ高サ。二寸
五分。も。一寸四フ。落懸ノ下モヨリ床カチノ上迄。四尺八寸三
フ。床ツカサ。二尺三寸。も。四尺。

床帳まし

床ノ方。一尺二寸かべ。まゝの壁。一尺二寸。田よこ。二尺二寸五
分。天井よりフチヨリ六寸五分下リ。
下地より中ノ柱ス、竹。六寸スハリ籬。

木品

炭床。かゝる。つが

釘

まじやうとノ釘。トドモ上リノ釘。カシラマキ。

木舞

木舞ワリ竹。カシ取目七分位。柱ギハ。カベジャクリ。
貫通り。総アサヲヌリコシ。クゴ縄。下地アラキダカベ。

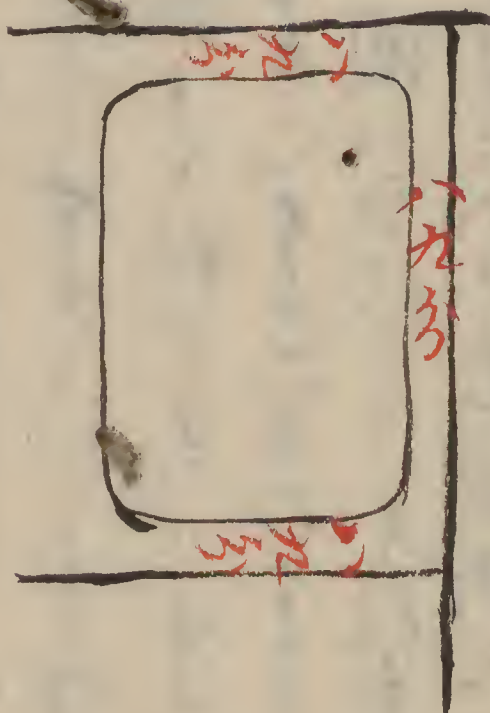
横ニ入トヌメ

木口一寸六七分。丸木。赤松皮付。

此柱ニハ竹ノ子ツラハ不付。床ノ四谷丸太ノ丸柱ニハ竹ノ子ツラアリ。
竹ノ子ツラノモクハ柱ニ應シ四ツ出トモ六ツセツ出ト夏モ有之

此ヌメノ下道 九尺五寸

赤松四寸スハリ籬



貫

大貫も四寸。中貫三寸五分。田ノ貫ハ三寸五分ニハ及不ヤム
巾(三寸)すこ減けく引ト中貫をきりて落シトトハ
新しく別腹ニ丸木を三寸五分ハセト方宜ト三寸スミといハ

二寸八分三寸ヨリヨクナルレニテ宜ム

壁

常ノカヘアリノハツウノ入ニテワタシハ海土をモツ
田ハアリノヨリアリキズ中ノアリモツドニイハレト
常ノハモツト木ノモツトモツトモツトモツトモツト
中ノアリモツトハアリキズモツトモツトモツトモツト
淡砂 舟ニ用トツナノアリキズモツトモツトモツト
モツトモツトモツトモツトモツトモツトモツト
○中ノアリモツトハ海土へスナモツトモツトモツト
スナモツトモツトモツトモツトモツトモツトモツト

風炉先窓

高一尺四寸

五分

上

横一尺二寸

三二寸

竹一

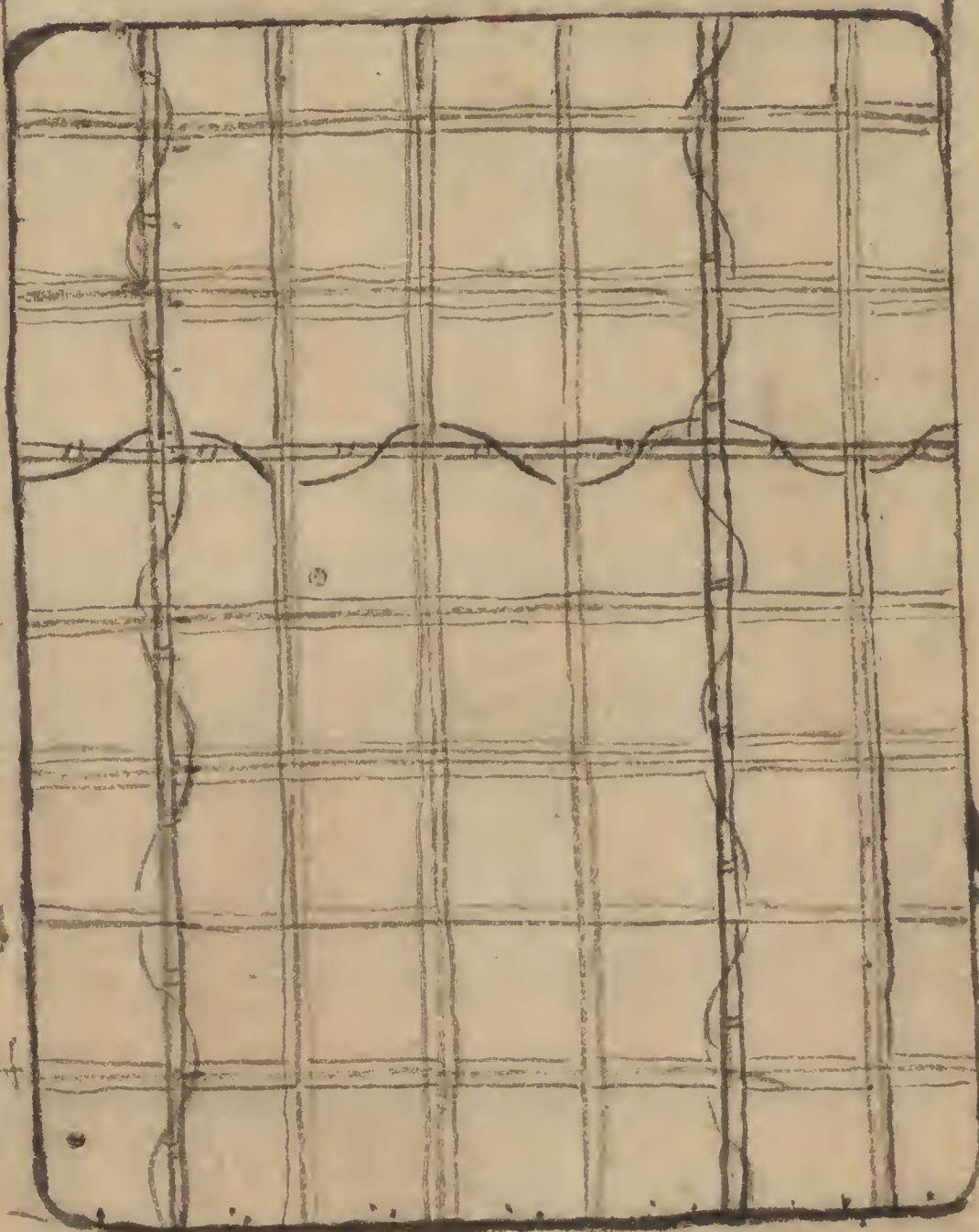
八分五厘

ヨシ二寸

ハキ
五三本

竹一

又ヨシ



三二寸

三二寸

竹一

三二寸

三二寸

三二寸

三二寸

三二寸

宗甫自筆ノ書

床ニ坐具一錠ノ時必柳ニ二錠 床ニ二錠ノ時必柳ニ一錠カ一の事

イロリノ灰多とまとい公持をいふてさうくをみよ
ヤリ解の増をてト

風炉の灰公持ハ山岸をいふ心持又炭並以後ノ前の
灰取前をわいしすきと岸杯の取る振カ一ト

茶入見申時茶入のぬきなり取申候時茶入の
蓋ハかむりのむきと茶入口作りかといふ中を蓋

をいふらむいふ見申人をもすいふていふ
能人や成其の端ニ密申事也数ト

床ニ坐具一錠ノ時必柳ニ二錠 床ニ二錠ノ時必柳ニ一錠
茶入見申時茶入のぬきなり取申候時茶入の

料理が可申刻茶入をもいふて見申人をも香炉
や成斜斜柱の通く並て有之ハ炭並ニ出申時を

ヤリ能ト 柳ニ茶入をも有之ハ料理前ニ成其又後ニ
成とも不苦人並て必料理前ニ能ト

茶入並よりたろト時盆を前ニ引申事引ても引火ハ
ても不苦ト 盆を引あつていふ手ハ上盆をふき

トト 盆引ていふのすいふていふもふきトトあつて
いとトト

茶入床ニ所申す花生りトトトト用の事
床ニ硯を並申事何色の座敷とも右

くといふやのちゆといふ何色の勝手いふとも右
茶入の上ニ茶抄とのせ並申時茶抄中が先トトトト

茶入多きとき重し時目ノ掛振ニ色 菓子ノ時水さし蓋
重振七所 茶入り茶スミをこし時わひり茶入り茶抄り

宗源菴号

鶏軒菴本叔宗源居士

菓子ノ上ニ柄抄置振

紹鴻ノ書ニさい茶をこしる時中少のるハ柄抄を
菓子ノ上ニ茂置ニ釜ノ通の上ニ少釜より勝手
の方へつけり重之柄抄ノ柄ハ五六分ホト出シテ重之

袋棚ノ上ニ柄抄蓋置置振

千カヒタチノフタノ下ニ

^{又云}フタノアル棚ノ上ニハ茶入茶碗可置茶入斗モ茶碗斗モ
可置又水指ハ下ノ段ニ可置其上ノ棚ニ柄抄フタヲキヲ可

置柄抄ノ置振ハ柄抄ヲスチカエテ其振ニ蓋置ヲヲクニ
フタヲキハ花ノ方ニ又柄抄ヲスリモ可置左右共ニ可置ソノ
時ハフタ置ハ何時モ棚ノ中ニヲクニ柄抄ハ棚ノハニ柄ト
フタヲキトノる七八分ノケテヲクニシ柄抄ノ柄ノフタノサ
先ノ方ニヲクニ

ゆき茶臨る時先柄抄ヲ下スルとき重も同前ね茶入茶
碗ヲ下ス水指の茶ニ重合ね臨るこ又茶入を先ヲロシテ
袋ヲ取ナシテ後ニ茶ワシヲロスモ有是ハ時ニヨルニシ
同シク茶巾茶抄棚ニモヲクニ茶タツル時ノコトニ柄抄ヲヲク
棚ニヲクニ

又さねのゆりへくハ寸ニ概不き重時ハ茶入茶碗重合時
柄ノフタノアル所ノ中ニ柱ノ所ヲ中スミニ茶入茶セニヲ可重

茶ヲ茶入^入並合モ其所ニ是ハ八寸ノケサレ時ノイ

盆建

ヨリ

又云茶入右ノキニテ盆ニ可置花ノキヲモ右ノキニソヘテ
茶抄ハ盆ニ可置茶入ノ服ニ可置但勝キノ方ヘヨセテ並
ニ柄ノ先一ツフセホト前ヘ出シテ置之茶ヲ汲時ハ先
茶入ヲ右ノキニテ取トテ花ヘナラシフタヲ取フタヲ盆ノセイ
カイニモタセカケテナリ但盆ノ上座ノ方ニ蓋ハナクナリ
茶抄ハ勝キノ方ニ茶入ノフタヲキサテ茶抄ヲトル
又盆ノ茶入兩望ニテ客ヘ出シ出^ルヨリフナヨリ三四寸ノケテ
又客人茶入^入ノキニ持ハ先身主ニ向カフト毎交モ
時宜ヨリヤト其上ニテ客人ヲロシヤト時ハ花ノヒキヲシ

右手ニテ少持上テ盆ノ西方ノ角ヲ取テモトノ居処ヘシサ
リ人柄ニ仕盆ヲ引ヨセテ前ニ並茶入ヲ下トテ見ヤト柄
茶入見ヤテ次ヘワタス時盆ヲモ見テ次中ニ下ヘワタス
ニ下ニ並テワタス

又盆ノ見柄ハ右ノキニテ盆ノセイカイノハタヲサ(花ノキ
ニテ少持上テ見ルニ兩キニテ持上テ裏表ナトヲ見ルハ
アシク人仕更ニ

又茶入ノ見柄先ノ直主ノ出ト所ニソノ、並トテ茶入ノ前
後フタノ仕柄能ク見極サテキニセテヒキヲ多クニ付テ
フブシヲ多クハナサス蓋ヲ人サシズビニテヲサ(テ可見其
後フタヲトリテ中ヲモソコヲモ可見ニ

又床一茶入^入必紹鴎ノ受出ニ合ヨセ居ヨリ八寸九寸ノ

勝キノ方ノイ

るト有之ケ糸ノ注ニモ服ノ方地を居ヨリ八九寸ホトモノク
ルト有之又紹鴎ハ前後ハ床ノ内多ク自二目前ヲヒロク並
モノ之ウス板並モ同前^{目付}アリケ糸ノ注ニハ床フチヨリ
九目十三目其外ニテモトアリ

又一多ク並ミ時水サシヨリ口リノ方(二目ヨセテヨクコト
口傳アリ是ハ並ニテ茶タツル時並ヲ水サシヲハツシテ
並ム時常ノ水指ノ置処真中ヲ二目イロリノ方(ヨセ
テ並ニ才一ノ口傳ニ

暗トウノ置処

又云朝ノスキア^フト^フノ置処勝手ノ方ノ床柱ノソハニ並柱
ヨリ四五寸勝手ノ方(ヨセテヨクニ多クノ目ハ三目斗ヨセ
並居ヨリノケテ並ニ但四多ク半長四多ク三多ク大

ニ多ク大ノ座敷^時ノ一多ク半ハ床ノ中ニヨクニ勝手
ノ方ノ床ノ内ノ一ヨリ四寸斗ノケテ並テ前ハ床カチ
ヨリ六七寸ノケテ並ニ床ノ下ニ置時ハ床中ノ大目カ
リノサス様ニヨクモノ

又夜ハイツレノ座敷ニモタシケイヲ並ニ置処ハア^フト^フノ並
処同前ノ一多ク半ハ木燈臺ヲヨクニ昔ヨリ相定事ニ
是モ床中ニヲクニ右ニ相極ト得共坐敷ニヨリア^フト^フニ
ケイノ並処カハル^フ有書付カタリトニ但タシケイハ座敷ニ
ヨリ並処カハル^フ尚二百ヶ糸ハ十六ノ如ト見合セ考フニ

又 風炉の時水指置合ノ事

風炉の時水指の並合ハいく目共不定水指以才ハ風炉
と並指と並方の明ト所を見合フのかつこ^フ次才ニト

是乃一の大方ハ七目九目十一目と心得水
次乃ニハ六目の数ハ不入ト凡中トモヤカトモ
そのく是又風炉ノ釜を志うくても旧布

長四有ニテ水指置様ノ又

又云長四有ニテモ四有ニ半ノ置合ノコトク水サシヲ
置支モ有

臺目置合

又
水指ヲ七目九目十一目ニ並但水指ニヨルヘシ茶ワシ茶ハ
水指ノワキニ其有ノ中ヲ茶入茶ワシニツノ中ニ
ナル様ニテテ茶セシ茶入モ同前ニ但是ハ古ノ置合ニ
當時ハ茶入ヲ水指ノ方ヘ四目五目ホトヨセテ並トナリ
茶ワシ茶入モ同前如此仕トハ茶セシハ水指ワキト大方

筋同通ニ茶ワシ茶入ヲク時モ茶入ハ水指ノワキノ通
アリ

一五半ニテ蓋置置処ノ事

又
いろりあちの角ヨリ一寸アリノケテヲクニ照ハ二目又
ハ三目ニモ並ニ釜ノフタノ大小ニヨルヘシ

蓋置勝手ノヘニモ置ト又

柄抄

柄抄
柄抄ヘイニ置時ハ蓋置ヲ其柄ノ下並ニ又柄抄ハカ
リモ並ナリ

花入ニ花入様

又云何様ノ花入ニテモ花ヲ入トニ花入ノ横ノ方ハ長
枝ノ向ノ様ニ入ト得ハ一切不出來モノニ但モ横ノコト
ニミジカキ枝ハ不替ト

運び茶湯 宗源家書

是よりす茶之時に湯茶を煮て後薄茶を煮て
後運ひ出さるる時云々一服くくくく
並に替るる三服は色ハ三度かへて煮る茶も
皆あつて煮る其さきむきと煮るあつて煮る可
並場所へ並にタレシ上茶を習有く古人
薄茶ハ煮るをサレて用近代ハ煮る人
を茶ワハ一ツと極し

同書 甚子の上

番炉煮るも有少物手かきと其外モ煮る
有キハリタル事ヤ 古侘ノ風

此茶調々常

同書

初の湯煮ぬわくく湯を汲入能あるととき金
筥をたて預け後の湯れふと汲能あると入残り
釜へ入率とかり合ふ

茶の茶せん

同書云茶の茶せんハ唐製之由

From the report of the
the committee on the
of the committee on the
of the committee on the
of the committee on the

of the committee on the

此二書者関翁之自筆ニ而所秘

茶湯ノ大要

関翁自書

△束ノ事

一 フタノ取ヤウミヲ下エ引ヌクヤウニシテ先ニ茶碗ノ
上迄出シ扱フタヲ前ニ置ヘ同フタノ仕様右ノ方ヨリ
ヨセテフチニテクラフルヤウニシテフタヲ合ルニ

△中次ノ事

一 フタノ取ヤウノ先右ノ方少カタムルヤウニシテフタヲ
フスリニ引ヌクニ同フタノ仕様モ如右之上ヨリサシム
ヤウニシテ大形グ邊ニ邊タル時ヨリフタヲハサスリ
左様ニスレハフレトフタガハマルモノニ

△サツウモ

一 フタノ取様フタヲ右ノ方ノフチニテヒラクヤウニシテ取ニ

同フタノ仕振モ同前ニ

△四帖半五徳ノ入様

一ツ凡ヲ前ニ垂ニ

△三帖大目五徳ノ入様

一ツ凡ヲ右ノ方ニ垂ニ

△一帖大目五徳ノ入様

一ツ凡ヲイロリノ内先ニ垂ニ

△イロリエ向テ居住居ノ事

一イロリフキノ左ノ角ノ方ヲ前ニテ、居ルニ

一四帖半フタノ垂所イロリノフキヨリ向右ノ方ニ目七

目ニ垂ニ

一カクレ家ノフタ垂四多半三帖大目ヤラハ一ツ凡ヲ先ニ

垂ニ是ハ帖大目ニハ一ツ凡ヲ前ニ垂ニ是ハ五徳ト云
合ヲ見合セタルモノニ

一極ニ垂タル水指ノフタヲ取垂振則垂ニ水サシニモタ
^{ホタテ}セカケテ垂ニ又花モナク座敷ニスクニ垂ハ花ノ手水指

ノ取ニ垂ニ

一茶ワシノ内仕振振茶筌ノホ先ヲ花ノ方エ寄テ
垂ニ是ハ茶抄ヲ定木ニ可垂タメニ

一柄抄垂振三拍子ノ事釜ノフキニカケテ一ツ振次ニ
ベニサシユビヲ垂ニヲロス一ツ振柄抄エ先迄引ニ是ヲ

引柄抄トイフニ

一フクサ物ノアイシライ茶巾ノコトク先左ノユビニカケテ振
下カラスクイ上ルヤウニシテツカミテ持ナリ

一、茶巾ヲナヲサズニ釜ノフタニ垂ハ茶ワシヲフキ、茶
ワシヲ持テ居ル内ニ茶巾ノ取出シ垂ス

一、茶入茶筥ヲヒツメテ垂カ子ノ事

イロリフチノ左リ手ノ前ノ角ト水指トノ右ノイロ
リフチノ角水指ト一チヤウニ見合テ垂ス但惣振

水指ノ方少寄テ

一、水ニフチノ垂所花ノヒサ半分カケテ垂ス

△いろりの釜スル

一、上ケおろすといふ

△風炉ノ釜スル

一、つけ上ルといふ

△をえんれい内組合スル

一、火ノ上ニ花ノ方ノ垂草ノ人モ花ニ垂但火ノ
羽ノ上ニ垂合道果ノとき時ハ右ニ垂之香
も垂合物ノ但ノ人モ上ノ上ノ火ノ上ニ垂合時ハ火ノ
上ノ前ノ方ニ垂但釜上ケてハ右ノ人ハ火ノ上ニ
ワシノ上ニ垂之惣別ノ火ノ成中ニ垂ス

△風炉ノ釜上ル持事

一、釜を上前ハ花ノ上ニ垂之此ノ持ハ草ノ上ニ垂用ニ
仕ル上ノ人モ如此又火ノ上ニ垂ハ右ノ人ハ火ノ上ニ垂
スル上ノ人ハ火ノ上ニ垂スル上ノ人ハ火ノ上ニ垂ス

△居住居ノ事但風炉ノ時

一、先風炉をたいしひ抄も茶碗も我が町当り垂
又板屋臺子ノ振成時ハ右ノ人ハ火ノ上ニ垂ス

一、風炉之時、引切、柄抄垂合、時柄抄、急、口前、通。

一 茶社のまやうが衆人へ傳へつて茶のわき
 へぬり可うな上と注意あるものと只代替へ上る
 ものと同輩へまのこのと只代かもちうへて出さ
 ぬものや又このとて先へはふ付礼をせぬとの位
 のと仕舞亭主へ後附へていへきうてもあるもの
 あり

一 柳を並合時大形をく目三目より

てん手桶あいさ

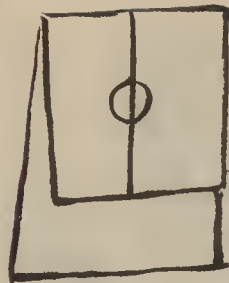
一 先風炉もといろりうもうもきすりあう方
を前へかゝとるもか手紙横へをくかり

てん手桶あいさ

如此之板あいなるいゝあきノ年高少引出ノ板
あきぬけノて先のうゝノ上ニ垂ルカサテ傳時
い前へひらりノノノてカサスル也。

古今あいにあふ

一 先手ヲ以てニ垂てもあらそもいりててもそ方
切ここのやもやうな方城むろなむぬわいふて
手をもつむてこて必ゆひて引出しそもわ
かしのやうなていりて垂てや城を耐へ又すこ
し引出し手城あとのけて垂て垂格ハ如斯なり



一 いろいろあるハ口ノ方ヲ釜ニ方ヘ風炉あるハ風炉の
方（や）いちやうハ口の上ニ釜ニ

△引切ノめく方ヲ先ニ切すより

△いさりの内仕振

一 第一やそころの浅キハあり。五徳の高さ凡ノのこ
トが灰造ノ名大形三寸不到に。て五徳あるの事
一ツ凡ノ向ノ方端ヲ炉につき掛け。て垂てハ灰を
くくろくこす。又四方ノ角ノみ根釜ノ大キ感ハ
メンヲ千イサク。千イサキ釜ニハメンヲ大キクあら。て内ハ
四方ノメンヲ入れ。ても熱根丸ク。て。し。根仕ものなり
角減れるも少い。を。て。せ。たる。の。能。由。大。形。此。等。之。

北より垂もみちよりあづかより



いりりゝ内りくの事四方ノナシノ事ト
まゝ通トヲ見合フてろくヲする之北條
ノイカキノ抵成ハちと山々ちなるがよき
よし惣別キきいすきするいぢ

△い第立あへりて已後釜のりて志あ
の志やうし垂先永垂叔あ孫仕思て追
付弟碗亭より来り前二又垂食以才

一、引切二釜、三、永三、水指、四、柄抄、板水、一二、番
も釜、丁、寸、寸

蜜サシ第

アイセシ

三訓 日
山 二井 曰

右之書 宗関公之御自筆
洋写之もの也

安永四年仲夏日

宗鷗

寛政十二年庚申仲秋吉日 宗古書 如

聞書

関翁自書

一教奇

此二文字分別ある事之すきとハカすこと
かけも茶之湯より教奇とハカす人教奇
と茶紙が別ハカす人もハカす人
そのすきとハカすことハカす人

情以新為先詞以古可用

此二文字分別ある事之すきとハカすこと
かけも茶之湯より教奇とハカす人教奇
と茶紙が別ハカす人もハカす人
そのすきとハカすことハカす人
情以新為先詞以古可用
用我ハカす

いりてやあきろこ いりてうんちみろこ
いうぢやう丸きろこ

いりてやあきろこ いりてうんちみろこ

右ふ色茶うよろこちあきろこ

三つく一はいのち

茶道やうりぬるこ一ろくおけろあけいこ時
アミウチ

茶入ろくおもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

おもてろくおけろあけいこ時

千子細い風呂のせて垂て（いひろ）物とち打
返しく垂ものうとて振ふるハよき師と替る
はくしていれぬる

つむやうとるうとる（あ）あ（あ）も
うさうとる（あ）

数寄屋の茶の湯道具とてかき物をもととある
せしうとてしき又かきひる（あ）

茶入（あ）とる（あ）三振（あ）力（あ）又（あ）な（あ）
ハ替る（あ）

流し（あ）紙（あ）（あ）又（あ）紙（あ）（あ）
（あ）（あ）（あ）

茶入（あ）（あ）（あ）

雪ノ茶の湯利の（あ）い（あ）（あ）中（あ）

（あ）（あ）（あ）（あ）

木と茶と花（あ）（あ）（あ）

（あ）（あ）（あ）

（あ）（あ）（あ）（あ）

人（あ）（あ）（あ）（あ）

茶（あ）（あ）（あ）（あ）

座（あ）（あ）（あ）（あ）

（あ）（あ）（あ）（あ）

（あ）（あ）（あ）（あ）

（あ）（あ）（あ）（あ）

一 榮入袋（入札）仕多習多へー世上のハ大形似る
 一 そのものごとく解更なが結ハ習多
 一 教育と書事といふは是ハかすくー其妙を
 一 小板と大板並合習多へー四帖半ノ度ハ習多
 一 少くも大板小板物とくく人ノ身キミれハ大形
 一 流ハ大小ヲモあすすーなる
 一 少くも大板並合より師ニ整ハ大形くむさ
 一 ものと承
 一 四帖半ノ時引切垂市とく習多
 一 手桶つる（習多へー）大形中ノ様ニ侍元ハ力
 一 解更つるハ習多

一 大海ノあいーひり
 一 ゐんふそと世るとけーる前もゐんふそとあ
 一 かしふとけー榮入をゐん（のせりかゝる）榮入
 一 ゐん（あけんと）解榮とく時のもゐんハ
 一 ゐんのあいーひりあーあ
 一 小ぢりあーりもふ解座布のらとくあ
 一 九多とくそとくあ
 一 竹の符ノ花入ちとの浅又ハ何とくあ
 一 多ノ榮湯とくきりて色とのり多とくあ
 一 しく習多へー
 一 流地を仕多り習多へー（の部ノ師とく）
 一 しくあーくお尋事へー

可くても寸法をへて振るゝハ書物とて大
可くよく尋ねた

熱別茶之湯ノ習ハ仙法同まゝトてとる
 事ハいふ^本あまの事とむすゝることも尋へ
 茶之湯の仙法~~推~~又ハ習ノ無^二根^一ニテ又習^二根^一
 なる事とて人禪宗ノ仙法と曰ふハ如斯く
 云し何もあまの力のハ仙法ハなにもなきと
 するにあらん人と茶之湯もきくあらん
 するに曰ふもなきもなきやうでもいろくの習
 多^二根^一とてゆゑが上^二年^一とて仙法もなきといふ
 すゝ人のまゝのちとぬと曰ふれ
 数あるハミバウノワノ根^二ハ^一仙とありさんて知^二三^一

す人のまいのちとむねと心と
数あるはさばうりの極に在とあり

数あるハズウノワノ振ニ
マ仕とるりさんて知ニ

くさうあふいあうあひひあうあ
うあうああうあうあうあうあ

しるしをあらはせしむ事

熱別四つとて人の榮く湯に一暖ありき由候
粒は傳多うとて

度布熱別ノ名所大抵ノ元ハ西所存事多人
生又可尋知

夜ノ花ノ事
振子物語能く
うきうき

一、大めとリ座布、うす紙、水屈、て、
うす葉、うす大形、うす一、半、紙、口、傳、是

るゝの印亭主ニ成とる多

客の心算をくみ取りあつひのうきあるは

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶葉をつまみ口わいのる成す。わいの^{本々}

人より存る。わいのとて

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

茶を煮て湯をうかきて火あきらめろ。粗茶は

一 七重うき祿とくするは口傳

一 名物といふきなりきても所持物たるもの茶湯
仕振あり

一 とくふらむといふ名物といふはものとも男
ものハ女ものすは仕振なりと承け振るる

一 とくふらむといふ名物といふはものとも男
ものハ女ものすは仕振なりと承け振るる

一 時ハ時ありきと承けよと尋ねり
流道具成と重並人時子の手入肝要なりとの

一 尋ねりきと承けよと承けよと尋ねり
なりと重並人時子の手入肝要なりとの

一 根子よりいふも重合してなりと承けよと尋ねり

一 名物といふはいふは仕立てもよき人なり
風呂中かきけは侍なりと承けよと尋ねり

一 かけると云ふは又二ツなりとも承けよと尋ねり
立事なり

一 名茶といふは茶の人の事
茶筌と座布一むしり

一 月々めく山ふおいてはわくまき
人といふは身のもの

一 口傳なり
うけり水折るなり

一 せつちん戸なり

右以宗園公所自筆謹而拜寫終

宗鷗

此関翁之書をほく本出す
不違一字書之

佑賢

宗鷗云

後林宗源息主馬介の遺書ニ

此道を慕ひ人ハ常ニ心の掃除をせよホシ
ニモ輕薄も結構ヲして底ニハイヤシキ心ヲ構タル
言語同断ノ邪魔ニ然ル軋雪云老後月ト云題ニテ

月ト云てむふ相いゝ老を云

人ヲみゆるもをもちゆき身ハ

此書乃月のうゝ一首解しあゝ一と一やをハ
老の事ハ此に傳ふるトに於て此宗源ノ
前書乃深切同本ノハくあノあやまりれと注ぐ者也

末年仲冬日

宗鷗

本ガ張紙ニテ如此
書有

5

の

87

B



5

2

一牙

—

6

①

3

2

2

34

郡

12



1

2

せよとの事へかりり兒もも落情を去りて心中
の清き成肝要と人心の中へ和もきものなる成
いずむ老後月より顔少く斯ふものなるなり
其和奇をひきぬふ和敬清寂く所也

右四首の和奇宗園居士茶湯の心持に法用
ありて自筆の書よりなり茶道の可謂極秘
口傳の解予加る者く努く不可多他見定賢

有似蘇宗鷗大

寛政十二年庚申仲秋吉日 宗古書也

園翁自書

一 茶點前のる巨細いずきぬ一くは茶を
みし極意と所たる記をり目ししとく

市後る推察のるなり
中一平つさき法をりて度大小長短方あり
くきとにきぬくの元扱先達のなり所をき
んもつりかきぬ所ハ一と尋くハ先立前を
覚るるも云とのくあかぬきとも人々生る
るも立前一通りよく見覺るるもそ似る
所と似る所あり聊も共くわたりぬるなり
んはありし先より人々密とてそを中へとす
るゆへにうきなりとわ教のよきなりと

先客成さんとねもあやも精神を和さ免筆と
わうのりし志川り客成ふさるに前よりなす
ありくにほし志このんわる魚し勿論客と對
しては割るん成志川りわさるにわさるは茶巾
かゝる旅のわさるさあさるにわさる大せつとあつ
くといさうの跡畧の跡をさるにわさるは自
然と立前しより又佐領とさるにわさるもの之
北趣能く考ふ事とハ外にわさるにわさる無
いなり

松なり

子園

入日記

初昔

後昔

祝祝

如此語人

伽羅ハ木目ヲ横ニ置之

好白

初昔

二二二

他家ニテ北方家ノ好ノ茶ナレハ如此モ語人

香匙キウシ火筋立カシジ

小座敷釣棚 是ハ普齋ノ書キ有之利休好故記之
深サ九寸此内土ニ五寸アリコメニ。一尺一寸之此内三寸土ニ五寸アリ
コメニ。板ノ厚サ三分。二重棚ノ高ハ八寸五寸ニ
右ノ棚ハ利休茶屋ノ二重座ノ棚之板ハ栗板ニ。けしきも栗ニ

懷石の关系

懷石の材料は、茶石と云ふは、温石、浅懷
し、腹をあらう、ひの道、のす、禪林の小
食、夜食が、茶石、然心も、云、何、意、あり
竹、庵、わ、石、の、名、を、も、ひ、ひ、く、一、吸、お、り、ち
き、又、字、を、も、

